

指宿市考古博物館

じ ゆう かん
時遊館 **COCCO** はしむれ

平成23・24年度

博物館年報・紀要

第10号

平成25年3月
指宿市教育委員会

事業報告編

平成23年度各事業の実施状況

1	博物館事業の部	1
2	後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	9
3	発掘調査・整理作業の部	10
4	文化財保護管理の部	10
5	刊行物・研究活動の部	10

平成24年度各事業の実施状況

1	博物館事業の部	11
2	後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	14
3	発掘調査・整理作業の部	14
4	文化財保護管理の部	15
5	刊行物・研究活動の部	15

紀要編

カナダへ渡った指宿の人びと ―新しい地域史のために― 立命館大学 河原典史	16
---------------------------------------	----

平成23年度各事業の実施状況

平成23年度に実施した主な事業は、次のとおりである。以下、その概要を記す。

1 博物館事業の部

(1) ゴールデンウィークイベント（4月29日～5月8日 体験者1,164人）

勾玉作り・あんざん編み・スタンプラリー・「はやぶさ・新幹線」写真展示コーナー・絵付け体験・はやぶさカプセルパーパークラフト・キーホルダー作りなどを実施した。

(2) 学びのふるさと講座（全7回、聴講者数243人）

鹿児島国際大学と連携し、全7回の講座を開催した。うち6講座を博物館で開催した。聴講生を募集して参加者を募るとともに、一般聴講者も参加できるものとした。平成23年度は、民俗と考古学に重点を置いた講座とした。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	4月16日	南に開く指宿の南方文化	川野和昭 (県歴史資料センター黎明館)	39人
2	5月14日	不思議な謎がいっぱい！宇宙ってな～に？	前田利久 (鹿児島県立博物館)	43人
3	7月9日	南薩からみえる古代	東 和幸 (鹿児島県立埋蔵文化財センター)	33人
4	8月27日	日食ハンターが語る太陽系の天体ショーについて（はやぶさ関連イベント）	森永成一 (指宿市立開闢中学校)	59人
5	9月17日	日本の歴史を変えた橋牟礼川遺跡の発見～縄文人と弥生人のくらしと知恵～	前迫亮一 (鹿児島県文化財課)	31人
6	10月22日	指宿の弥生時代から古墳時代～最新の考古学成果からみた新事実～	中園 聡 (鹿児島国際大学)	33人
7	12月10日	キャンパスコンサート	鹿児島国際大学講師	5人

(3) はしむれ日曜講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、歴史講座を開催した。

	開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
1	2月13日	古代史海洋冒険談	指宿地方における旧石器時代～平安時代の交流	渡部徹也	30人
2	3月18日	中世から近世の文物交流について	指宿地方における中世～近世の文物交流	鎌田洋昭	13人

(4) 小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展及び関連イベント

時遊館COCCOはしむれでは、平成23年度に小惑星探査機「はやぶさ」の帰還カプセル展を実施し、それに伴う関連イベントを実施した。

ペットボトルロケットと火薬ロケットの打ち上げは、子どもたちに工作してもらい自分の作品を飛ばし、ロケットの仕組みを理解してもらった。星空観察会は季節の星空を観察し、宇宙への関心を高めた。これらを通じて、当館が計画した小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展のPRに資するとともに事業の円滑な推進を図った。

	開催日	テーマ	会場	聴講者数
1	4月16日	体験 天体望遠鏡を作ろう・星空観察会① 【春の星座・月・土星】	はしむれ講堂	7人
2	4月29日	はやぶさってなに？ はやぶさペーパークラフトを作ろう (ゴールデンウィークイベント)	はしむれ講堂、駐車場	60人
3	5月14日	講演会「不思議な謎がいっぱい！宇宙ってなに？」	はしむれ講堂	43人
4	6月18日	体験 宇宙食を食べてみよう	はしむれ講堂	12人
5	7月30日	体験 星空観察会②、天体撮影会 【みずがめ座流星群・夏の星座】	開聞ふれあい公園	39人
6	8月27日	体験 ペットボトルロケットを打ち上げよう	橋牟礼川遺跡史跡公園	54人
7	9月10日	体験 星空観察会③ 【観月会】	はしむれ講堂、駐車場	29人
8	10月8日	体験 小型火薬ロケットを打ち上げよう	はしむれ講堂、 橋牟礼川遺跡史跡公園	66人
9	11月5日	体験 星空観察会④【おうし座流星群・秋の星座】	はしむれ講堂、駐車場	20人
10	11月12日	古川聡宇宙飛行士帰還ライブパブリックビューイ ング	はしむれ歴史劇場	50人
11	12月10日	体験 星空観察会⑤【皆既月食】	はしむれ講堂、駐車場	20人
12	1月14日	体験 国際宇宙ステーションを見よう	はしむれ講堂、駐車場	12人

■宇宙公開講座

鹿児島県宇宙開発促進協議会の協力を得て、宇宙に関心のある市民を対象に公開講座を開催した。

主催 鹿児島県・鹿児島県宇宙開発促進協議会・指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ

日時 平成24年12月3日(土) 午後1時30分から午後4時まで

会場 時遊館COCCOはしむれ講堂・ロビー・橋牟礼川遺跡史跡公園

講師 大塚成志 (JAXA鹿児島宇宙センター管理課長)・日高智洋 (同センター 管理課広報担当)

内容 第一部「宇宙のおはなし」では大塚氏による「宇宙ロケットのおはなし」というタイトルで最新の宇宙ロケットについてお話し頂いた。休憩後、第二部「科学実験教室」では日高氏の指導によるフィルムロケットの親子工作を講堂で行い、ロビーで打ち上げ体験を行った。また、史跡公園で水ロケットの打上げ実験も行った。

対象 小・中学生を含む親子30組

参加費 無料

参加者 70人

■第66回JAXAタウンミーティングin指宿 『神秘的な宇宙の謎と小惑星探査機はやぶさの偉業』

宇宙航空研究開発機構（JAXA）が推進している宇宙開発について、市民を対象に開催した。

主催 指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ・宇宙航空研究開発機構（JAXA）

日時 平成23年10月29日(土) 午後1時30分から午後4時まで

会場 時遊館COCCOはしむれ講堂

講師 山浦雄一（JAXA執行役員）・橋本樹明（JAXA宇宙科学研究所 教授）

内容 JAXAの職員による小惑星探査機「はやぶさ」や国際宇宙ステーション等の宇宙技術について講師からの話題提供後、一般参加者から質問や意見を頂きながら、JAXAが推進している宇宙開発や技術について深く理解して頂く機会とした。

対象 高校生以上一般

参加費 無料（事前にハガキまたはメールによる申込みが必要）

入場者数 150人

■川口淳一郎教授特別講演会

日時 平成24年2月19日(日) 午後3時から午後5時まで

会場 指宿市民会館 大ホール

講師 川口淳一郎（元小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー・JAXA 教授）

演題 『小惑星探査機「はやぶさ」が成し遂げた偉業と乗り越えた苦難』

内容 小惑星探査機「はやぶさ」が、7年間、約60億kmの宇宙の旅をして、小惑星「イトカワ」から太陽系の起源を探る微粒子をカプセルに入れて地球へ持ち帰るまでに乗り越えた苦難や、ギネスブックにも登録された世界的な偉業について分かりやすく講演を頂いた。

対象 一般

参加費 無料（事前に電話による申込みが必要）

入場者数 800人

■小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展

期間 平成24年2月24日(金)～28日(火)

※24日は市内小中学生のみの見学、25日以降が一般公開

会場 時遊館COCCOはしむれ 講堂

入場者数 子供 3,704人 大人 2,961人 計 6,665人

展示構成

◆宇宙航空研究開発機構（JAXA）からの借用物

- ・実物【インストルメントモジュール、背面ヒートシールド、搭載電子機器部、パラシュート】
- ・レプリカ【前面ヒートシールド】
- ・模型【「はやぶさ」帰還カプセル・カットモデル、小惑星探査機「はやぶさ」1/8】

◆JAXA種子島宇宙センターからの借用物

- ・小惑星探査機「はやぶさ」模型、M-V-5号機ミニロケット模型、ロケット打ち上げ等のパネル

◆JAXA鹿児島宇宙センターからの借用物・提供物

- ・宇宙服、来館者へ配布用パンフレット等

その他 一般公開の4日間は、来館者先着200名にもれなく特製クリアファイルをプレゼント。

帰還カプセル等が展示されている講堂までの廊下には、小惑星探査機「はやぶさ」の写真パネルを展示。また、2階時遊空間では、「はやぶさ」や宇宙グッズの販売コーナーを設置。

写真 宇宙公開講座



写真 JAXAタウンミーティング

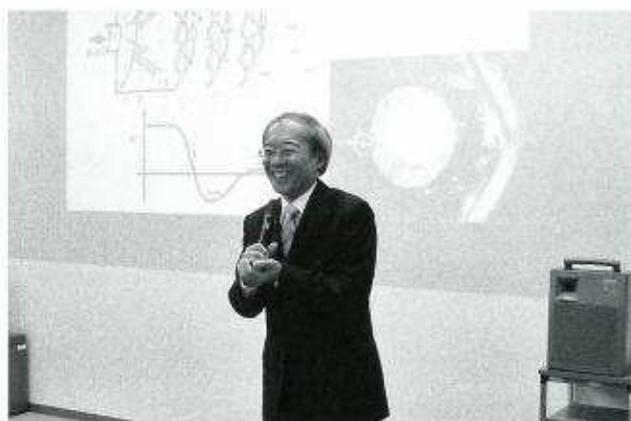


写真 川口淳一郎教授特別講演会





写真 小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展



はやぶさ関連イベント

ペットボトルロケット工作・打ち上げ体験

小型モデルロケット工作・打ち上げ体験



(5) 企画展「新聞でたどる近代史 ー黒船来航からアポロまでー」(10月1日～12月4日 入場者数：3,525人)

近代日本の新聞の起源は、江戸時代に発行された「かわら版」といわれる。明治に入り、日刊新聞の第1号といわれる「横浜毎日新聞」が発刊されると、その後、相次いで各地に新聞が誕生し世相を映す鏡となった。本企画展では、大武進コレクションから貴重新聞を選び、新聞の黎明期の様相、南日本新聞の前身である鹿児島新聞の発刊と普及、鹿児島新聞の変遷をたどり、数々の歴史的イベントとともに幕末から1960年代までの新聞から見える「近代史」を追うことで、新聞の果たしてきた役割や意義を紹介した。

(6) 第22回いぶすきシルバー美術展(8月7日～8月21日 入場者1,691人)

鹿児島県内在住の60歳以上の方から絵画作品を公募し、一堂に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成2年度から開催しており、今年度で22回を迎える。出展者数154人、200点の作品を展示した。

(7) 学習支援活動

来館者に対する学習支援の他、博物館実習生や職場体験学習の受入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

平成23年度

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習(記載のない団体は見学のみ)
1	4	15	金	大成小学校	33	
2		22	金	丹波小学校	97	火おこし
3		〃	〃	川尻小学校	10	消しゴム勾玉
4	5	12	木	倉岡小学校	38	絵付け
5		13	金	今町小学校	27	
6		19	木	笠野原小学校	62	消しゴム勾玉
7		〃	〃	柳田小学校	65	
8		〃	〃	前之浜小学校	13	石勾玉
9		〃	〃	三股小学校	140	
10		〃	〃	西部中学校	23	石勾玉
11		〃	〃	勝岡小学校	62	
12		〃	〃	菓子野小学校	23	
13		20	金	妻南小学校	111	
14		〃	〃	川尻小学校	26	消しゴム勾玉
15		24	火	上山・八幡合同小学校	30	石勾玉
16		25	水	中種子3校合同小学校	34	石勾玉
17		〃	〃	中平小学校	34	消しゴム勾玉
18		〃	〃	菱田小学校	33	

19	5	25	水	国見小学校	22	石勾玉
20		〃	〃	湾小学校	61	消しゴム勾玉
21		26	木	寿小学校	96	消しゴム勾玉
22		27	金	五十小学校	128	
23		〃	〃	丹波小学校	35	
24	6	1	水	岩川小学校	68	石勾玉
25		〃	〃	古仁屋小学校	63	
26		〃	〃	伊津部小学校	48	
27		8	水	永化女子商業高校	10	
28		17	金	明和小学校	107	
29	9	8	木	筑山中学校	27	石勾玉
30		14	水	多良中学校	31	石勾玉
31		15	木	筑紫野南中学校	40	石勾玉
32	10	6	木	上長飯小学校	126	消しゴム勾玉
33		13	木	指宿小学校	44	
34		14	金	柳田小学校	70	消しゴム勾玉
35		〃	〃	宮脇小学校	22	あんざん編み
36		28	金	指宿養護学校	3	
37	11	11	金	丸野小学校	18	
38		22	火	青戸小学校	24	
39		30	水	春日西中学校	14	絵付け
40		〃	〃	春日西中学校	21	
41	1	18	水	羽生第一高等学校	52	
42		19	木	指宿高校	46	
43		31	火	柳田小学校	68	
44	2	10	金	指宿小学校	44	
45	3	6	火	玉龍中学校	14	あんざん編み
46		7	水	玉龍中学校	8	石勾玉

出前事業・出前体験学習、職場体験学習

	月	日	曜日	学校名	人数	内容
1	5	26	木	高齢者クラブ	29	オリピン万華鏡
2	6	14	火	西指宿中学校	12	校区の大地と歴史
3	7	1	金	今和泉小学校	32	大地の動き
4		26	火	川尻保育園	20	オリピン万華鏡
5	8	9	火	魚見校区公民館	40	オリピン万華鏡
6	9	15	木	柳田小学校	66	昔の道具と暮らし
7	10	20	木	川尻小学校	12	地層、川尻小の地面
8	11	26	土	山川校区わくわく体験塾	17	石勾玉、とじこメール作り
9	1	23	月	南指宿中学校	3	職場体験（1月27日まで）

(8) 企画展「指宿まるごと博物館Ⅲ 古代史海洋冒険談」(平成23年12月23日～平成24年3月25日 入場者数:2,301人)

◆展示概要

南薩地方は、古来、南島文化の窓口であった。本市に所在する縄文時代～古墳時代の各遺跡からは、南島との交流を物語る考古資料が数多く出土し、また、沖縄でも鹿児島県本土で発達した土器が出土している。一方、古代以降中世にかけては、須恵器や貿易陶磁器など本州や大陸との交流を示唆する遺物も見られる。近世においては、山川港は藩港となり琉球貿易の窓口となった。

本企画展においては、海を渡ってきた様々な考古資料を取り上げ、古代交流史の実態を探るとともに、中世から近世における山川港を中心とした海にまつわる歴史の一端を紹介した。

(9) ミニ企画展「いぶすきシェルコレ2011」(6月25日～7月31日 入場者数:1,439人)

◆展示内容

指宿で採集された貝、鹿児島湾で採集された貝、志布志湾で採集された貝、奄美大島・沖永良部島で採集された貝、908種1200点を標本化。貝の形でまとめた標本、生息場所でまとめた標本を展示、指宿市内での貝殻の採集ポイントを紹介した。また、市民のコレクターから世界のめずらしい貝、貝殻アート作品を借用し展示した。さらに22年度に引き続きヤドカリの飼育展示を行った。ヤドカリについては、透明アクリルで貝がらを再現し、殻の中の様子を観察できるように工夫した。

◆関連イベント

子どもたちによる「竜宮城」アート作品展

市内の幼稚園・保育園の子どもたちが「竜宮城」をテーマにして描いた絵画約300点を展示した。

◆体験学習

「貝で作るかわいい小物」づくり

展示期間中、随時、貝がら細工体験を開催。

「貝がらアート」教室

講師 嶋川和恵先生(徳光小学校教諭)

7月31日及び8月4日 参加者60人

(10) 指宿まるごと博物館構想推進事業

ミュージアム活性化支援事業の補助を受け、当館を含む実行委員会で下記のソフト事業を実施した。

1 指宿まるごと博物館情報発信事業

①「指宿いにしえ絵巻」の作成(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・(社)指宿青年会議所)

◆実施概要

池田湖、開聞岳、長崎鼻、鰻池、鏡池など、本市の景勝地には、それらにまつわる文化財や伝承が数多く残されている。児童・生徒を対象に地域の語り部によるお話し会を開催、児童・生徒には、印象に残った場面を絵にしてもらい、それらを巻物風にして仕上げた。作品は、観光特急指宿のたまたま箱号の車内での配布やJR指宿駅、博物館等で展示した。また、本市には年間2万人を超える外国人観光客が訪れているため、英語・ハンゲル語・中国語に翻訳した解説を付した。

②指宿まるごと博物館ホームページ作成(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿市観光課)

◆事業概要

「指宿まるごと博物館構想」に基づき、市域にある文化財、自然、産業、施設、郷土芸能、イベントなどの情報を網羅したホームページを作成した。ホームページは、地域の活動や観光情報として利用できるよう、観光に特化したホームページ「いぶすき総合観光サイト」内にバナーを設けた。

ホームページアドレス <http://youkoso-ibusuki.com/home/>

③指宿まるごと博物館ガイド育成事業（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・(社)指宿市観光協会）

◆事業概要

指宿まるごと博物館の推進にあたり、市域の9つのエリアで「まち歩き」を実践するために、文化遺産をはじめとする多彩な地域資源の魅力を、市内外の人々にわかりやすく伝えることができるガイド育成のための研修を行った。

④指宿まるごと博物館映像制作事業「いぶすき風土記」制作（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿ムービープロジェクト）

◆実施概要

幕末に編纂された三国名勝図会に掲載されている本市の景勝地（知林ヶ島・開闢岳・池田湖・山川港の4ポイント）について、歴史的な評価やそれらにまつわる逸話、地域で語り継がれるエピソード、文化財との関わりなど文化史的な解説を加えた70分の映画を制作した。郷土教育教材としての活用を図るため、市内の各学校にDVDを配布した。インターネット配信も行っている。

⑤指宿まるごと博物館「ふるさとの伝承・昔話」教材化事業（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿図書館）

◆実施概要

指宿市立図書館と連携し、市域に残る文化財にまつわる伝承や昔話の中から「はなたんご」「焼印を押されたカップ」「かごしま」の3話を選択し、紙芝居とDVDのデジタルコンテンツを作成した。それらを教材に読み聞かせやお話し会を開催し、ふるさとの歴史について楽しみながら学べる機会を提供した。また紙芝居とDVDについては、郷土教育教材としての活用を図るため、指宿市内の幼稚園・保育園・小学校に配布した。インターネット配信も行っている。

2 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

(1) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援

研修視察 蒲生町まち歩き

(2) 篤姫のひなまつり（平成24年1月28日～3月31日）

場所 時遊館COCCOはしむれ 1階ロビー

内容 雛壇飾り、土人形

(3) 展示会の施設利用

■さつき展

■市内児童・生徒理科作品展

■市内児童・生徒絵画展

■古希展

3 発掘調査・整理作業の部

(1) 市内遺跡確認調査

敷領遺跡の確認調査をメインに、開発対応に伴う遺跡の確認調査を実施した。民間開発に伴う調査として、江戸期の光明寺跡地と推定される迫田遺跡隣接地における確認を行ったことが、特筆すべきことであった。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物
敷領遺跡	指宿市十町	8月16日～2月28日	85㎡	遺跡範囲確認	带状遺構、ピット、道跡	須恵器蓋、成川式土器
小田遺跡	指宿市十二町	12月27日	3㎡	民間開発	-	-
迫田遺跡 (隣接地)	指宿市十町		-	民間開発	-	弥生式土器片、近世陶磁器類

(2) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡・水迫遺跡整理作業

平成14・15・17・18年度に実施した西多羅ヶ迫遺跡発掘の出土資料と平成21年度に実施した水迫遺跡発掘の出土資料の整理作業を実施した。広域営農団地農道整備事業の終了年が1年間延びたことにより、23年度に予定していた報告書の発行は24年度の予定になった。

4 文化財保護管理の部

○文化財防火デー（平成24年1月26日）

地域住民、関係機関参加のもと、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡史跡公園及び枚聞神社で、防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて、理解・協力を求めた。

○指定文化財等の保護

刻み地蔵、天の岩屋供養塔群及び上仙田東屋敷供養塔群の老朽化した看板の修繕・設置を行った。また、市内文化財の巡回パトロールを行った。

5 刊行物・研究活動の部

(1) 「指宿まるごと博物館Ⅲ 古代海洋冒険談」展示図録刊行

企画展「指宿まるごと博物館Ⅲ 古代海洋冒険談」の内容を紹介した。

(2) 企画展「新聞でたどる近代史 -黒船来航からアポロまで-」展示図録刊行

企画展「新聞でたどる近代史 -黒船来航からアポロまで-」の内容を紹介した。

(3) 平成23年度市内遺跡確認調査報告書刊行

平成23年度に実施した敷領遺跡等の確認調査に伴い、遺跡の記録保存を行った。

(4) 学会発表

第28回条里制・古代都市研究大会 期日：平成24年3月3日 会場：奈良文化財研究所平城宮跡資料館
発表タイトル「遺跡に見る貞観16年の開聞岳噴火災害について」渡部徹也・鎌田洋昭・鷹野光行・新田栄治

平成24年度各事業の実施状況

平成24年度に実施した主な事業は、次のとおりである。以下、その概要を記す。

1 博物館事業の部

(1) ゴールデンウィークイベント（4月29日～5月8日 体験者851人）
を実施した。

(2) 学びのふるさと講座（全7回、聴講者数493人）

平成23年度まで鹿児島国際大学と連携して実施していた学びのふるさと講座は、平成24年度から指宿市の単独事業となり博物館で全7回の講座を開催した。聴講生を募集して参加者を募るとともに、一般聴講者も参加できるものとした。平成24年度は、前年度の小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展の関心が高かったことから、歴史的な講座のほかに宇宙の学習ができるよう配慮した。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	5月20日	金環日食の謎と安全な観察について	鎌田洋昭 (当館学芸員)	55人
2	5月20日	日食メガネ工作	鎌田洋昭 (当館学芸員)	167人
3	7月14日	国際貿易港「山川港」が果たした役割	徳永和喜 (県歴史資料センター黎明館)	56人
4	8月25日	ロケットの不思議なお話とモデルロケットの工作と打ち上げ体験	河野貞則 (鹿児島宇宙センター)	59人
5	9月22日	縄文土器の不思議な魅力	新東晃一 (南九州縄文研究会)	24人
6	10月20日	今解き明かされる松尾城の姿	三木 靖 (鹿児島国際大学)	78人
7	2月23日	火山のマトリョーシカ ー鶴の港誕生の謎ー	成尾英仁 (県立武岡台高等学校)	54人

(3) はしむれ日曜講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、歴史講座を開催した。

	開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
1	12月23日	指宿みなと物語～薩摩を支えた山川港	中世から近世にまつわる歴史を紹介	渡部徹也	42人
2	2月23日	火山のマトリョーシカ ー鶴の港誕生の謎ー	山川港を中心に近隣の火山の形成を紹介	成尾英仁	54人

(4) ミニ企画展「いぶすきシェルコレ2012」

指宿で採集された貝、鹿児島湾で採集された貝、志布志湾で採集された貝、奄美大島・沖永良部島で採集された貝、908種1200点を標本化。貝の形でまとめた標本、生息場所でまとめた標本を展示、指宿市内での貝

殻の採集ポイントを紹介した。また、市民のコレクターから世界のめずらしい貝、貝殻アート作品を借用し展示した。

(5) 第23回いぶすきシルバー美術展（8月12日～8月26日 入場者 2,236人）

鹿児島県内在住の60歳以上の方から絵画作品を公募し、一堂に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成2年度から開催しており、今年度で23回を迎える。出展者数123人、167点の作品を展示した。

(6) 学習支援活動

来館者に対する学習支援の他、博物館実習生や職場体験学習の受入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

平成24年度（平成25年3月1日時点）

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習（記載のない団体は見学のみ）
1	4	25	水	川尻小学校	16	
2	5	1	火	丹波小学校	114	火おこし
3		10	木	今町小学校	47	消しゴム勾玉
4		11	木	柳田小学校	68	
5		16	水	大和村立合同小学校	36	
6		17	木	妻北小学校	89	
7		〃	〃	倉岡小学校	30	
8		〃	〃	三股西小学校	139	
9		18	金	4校合同小学校	31	消しゴム勾玉
10		〃	〃	菓子野小学校	25	
11		〃	〃	妻南小学校	95	
12		〃	〃	前之浜小学校	11	石勾玉
13		22	火	屋久町3校合同小学校	37	石勾玉
14		23	水	南種子7校合同小学校	80	
15		25	金	青戸小学校	30	
16		〃	〃	武岡台小学校	73	石勾玉
17		29	火	丹波小学校	11	
18		30	水	伊津部小学校	46	
19		31	木	内之浦小学校	29	
20	6	1	金	五十市小学校	93	
21		8	金	西落合中学校	47	石勾玉
22		29	金	指宿小学校	57	
23	9	6	木	春日野中学校	40	石勾玉
24		12	水	筑紫野南中学校	37	
25		13	木	春日南中学校	19	石勾玉

26	9	20	木	寿小学校	91	
27		23	日	平野中学校	78	石勾玉
28		26	水	那珂川学校	41	皿絵付け
29	10	11	木	上長飯小学校	140	消しゴム勾玉
30		12	金	柳田小学校	74	消しゴム勾玉
31		16	火	山川・利永・徳光小学校	26	
32		19	金	別府小学校	41	消しゴム勾玉
33		22	月	池田高校	26	
34		25	木	国見小学校	20	
35		々	々	古仁屋小学校	76	
36	11	9	金	丸野小学校	30	
37	1	30	水	指宿小学校	44	
38		31	木	指宿高校	37	

前事業・出前体験学習、職場体験学習

	月	日	曜日	学校名	人数	内容
1	6	10	日	指宿図書館	5	周辺の文化財ウォッチング
2		12	火	西指宿中学校	41	校区の地形の歴史
3		13	水	西指宿中学校	23	校区の歴史
4		14	木	開闢老人クラブ	22	とじこメール作り
5	7	21	土	小川子ども会	33	石勾玉作り
6	8	7	火	魚見校区公民館	29	ペットボトルロケット
7		々	々	麓上下子ども会	50	星空観察会
8		23	木	川尻マンゴークラブ	15	オリビン万華鏡
9		24	金	指宿図書館「夜のおはなし会」	30	星空観察会
10		25	土	縄文の森	20	星空観察会
11	9	12	水	小川高齢者クラブ	15	石勾玉作り
12	10	12	金	柳田小学校	66	昔の道具を調べよう
13		19	金	川尻小学校	14	火山・地層について
14		26	金	指宿図書館「夜のおはなし会」	36	星空観察会
15	11	27	火	鰐地区高齢者学級	14	あんざん編み
16		30	金	上野地区高齢者学級	27	石勾玉作り、あんざん編み
17	1	21	月	南指宿中学校	3	職場体験（1月25日まで）
18		24	木	指宿小学校	71	昔の道具について

(7) 企画展「指宿まるごと博物館Ⅳ 指宿みなと物語 ～薩摩を支えた山川港～」

(平成24年12月22日～平成25年2月24日)

山川港が見つめた中世から近代までの歴史をひも解く展示

◆展示構成

- ・火山による山川港の成り立ち
- ・国際貿易港としての歴史、海外との交易を示す出土品
- ・薩摩藩港としての山川港の役割、浜崎太平次等海商の活躍
- ・琉球使節の絵図、琉球文化の伝播
- ・現在の山川港、海上保安所の役割

◆関連イベント

はしむれ日曜講座の開催(全2回)

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、歴史講座を開催した。

2 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

(1) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援

(2) 篤姫のひなまつり(平成25年1月26日～3月24日)

場所 時遊館COCCOはしむれ 1階ロビー

内容 雛壇飾り、土人形

(3) 展示会の施設利用

■さつき展

■市内児童・生徒理科作品展

■市内児童・生徒絵画展

■指宿まるごと博物館「そげんじゃったなー指宿写真展」

3 発掘調査・整理作業の部

(1) 市内遺跡確認調査

敷領遺跡の確認調査をメインに、開発対応に伴う遺跡の確認調査を実施した。その他、市指定文化財史跡松尾城の解明と縄張り確認のために平成24年度から調査を始めたことが、特筆すべきことであった。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物	備考
敷領遺跡	指宿市十町	7月1日～ 3月31日	40.5㎡	遺跡範囲確認	-	-	攪乱を受けている
松尾城	指宿市字城ヶ崎	4月1日～ 3月31日	-	曲輪状況	空堀、曲輪、土塁		踏査と基本測量
宮之前遺跡	指宿市西方宮之前	平成25年 1月15日	-	個人住宅	-	成川式土器ほか	
岩本麓遺跡	指宿市岩本	8月16日	-	市道拡幅事前調査	-	成川式土器ほか	表採 表採
光明禅寺推定地	指宿市十二町	6月16日 10月18日	-	メディアポリス専用道路改良工事	-	山川石片、瓦片	表採

(2) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡・水迫遺跡整理作業

平成14・15・17・18年度に実施した西多羅ヶ迫遺跡発掘の出土資料、平成21年度に実施した水迫遺跡発掘の出土資料の整理作業を実施した。広域営農団地農道整備事業の終了年度となったため、報告書を刊行した。

4 文化財保護管理の部

○文化財防火デー（平成25年1月26日）

地域住民、関係機関参加のもと、市指定無形民俗文化財成川神舞の道具を保管する成川区民センター及び枚聞神社で、防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて、理解・協力を求めた。

○指定文化財等の保護

菅山の方柱板碑及朽化した看板の修繕・設置を行った。

また、市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。

5 刊行物・研究活動の部

(1) 「指宿まるごと博物館Ⅳ 指宿みなと物語～薩摩を支えた山川港～」展示図録刊行

企画展「指宿まるごと博物館Ⅳ 指宿みなと物語～薩摩を支えた山川港～」展示内容を紹介。

(2) 平成24年度市内遺跡確認調査報告書刊行

平成24年度に実施した敷領遺跡等の確認調査に伴い、遺跡の記録保存を行った。

(3) 広域営農団地農道整備事業南薩東部3期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書刊行

西多羅ヶ迫遺跡と水迫遺跡の調査成果をまとめた。

西多羅ヶ迫遺跡は、平成14・15・17・18年度と継続的な発掘調査によって、後期旧石器時代初頭から縄文時代後期までの複合遺跡であることが確認された。旧石器時代は、後期旧石器時代初頭、ナイフ形石器文化期（AT下位・AT上位）、細石刃文化が層的に確認された。縄文時代は、草創期と早期に帰属する土器が出土した。特に、縄文時代草創期の土器は、無文土器で内面に突帯状を巡らす土器であり、県内の草創期土器の中で初例である。

発掘調査後、平成19年度から23年度まで出土遺物整理作業を行い、平成24年度に報告書刊行を行った。特に、西多羅ヶ迫遺跡では始良カルデラから噴出された大隅降下軽石層の下位層から後期旧石器時代初頭に位置づけられる台形様石器を主体とする石器群が確認された。良好な接合資料によって、素材剥片の一側面または両側面を意図的な切断により、台形状に整形している石器製作技術を垣間見ることができた。九州島における後期旧石器時代初頭の石器群として貴重な資料である。また、AT火山灰の上位層からは、板状のシルト質凝灰岩を素材とした縦長剥片を連続時に剥離する剥片剥離技術を保有するナイフ形石器文化の石器群が確認された。

出土遺物の整理作業に伴い、石器素材と使われているジャスパーや砂岩、シルト質凝灰岩の原産地を踏査し、遺跡との関連について研究を行った。南薩地域における後期旧石器時代の遺跡と石器石材の原産地について関連研究は初めての取り組みである。

水迫遺跡は、後期旧石器時代のナイフ形石器文化終末期から細石刃文化期初頭に位置づけられる炉跡や竪穴建物跡、道跡、杭跡が検出された遺跡として著名である。この遺跡から弥生時代に帰属する松菊里型住居が検出され、その住居の埋土内から管玉が2点出土した。

両遺跡の調査成果と自然科学分析結果については、「水迫遺跡・西多羅ヶ迫遺跡」に掲載されている。

1. はじめに

江戸時代末期の開国を契機に、多くの日本人が海外へ飛雄した。渡航先として、明治期にはハワイやアメリカが選ばれたが⁸、入国制限を受けた大正期になると、それはブラジルを中心とする南米になった。やがて、そこでも制限されると、渡航地は満州を中心とする中国大陸へ転換した。そして、第二次世界大戦の敗戦によって、ひとまずは日本からの海外移民は幕を閉じた。しかしながら、その渡航先は南米を中心としつつ、1960年代前半の高度経済成長期まで日本人の海外移住は継続された。このような日本人の海外移民史を振り返ると、ハワイ・アメリカ・ブラジル、ならびに満州での活動を思い浮かべることが多い。

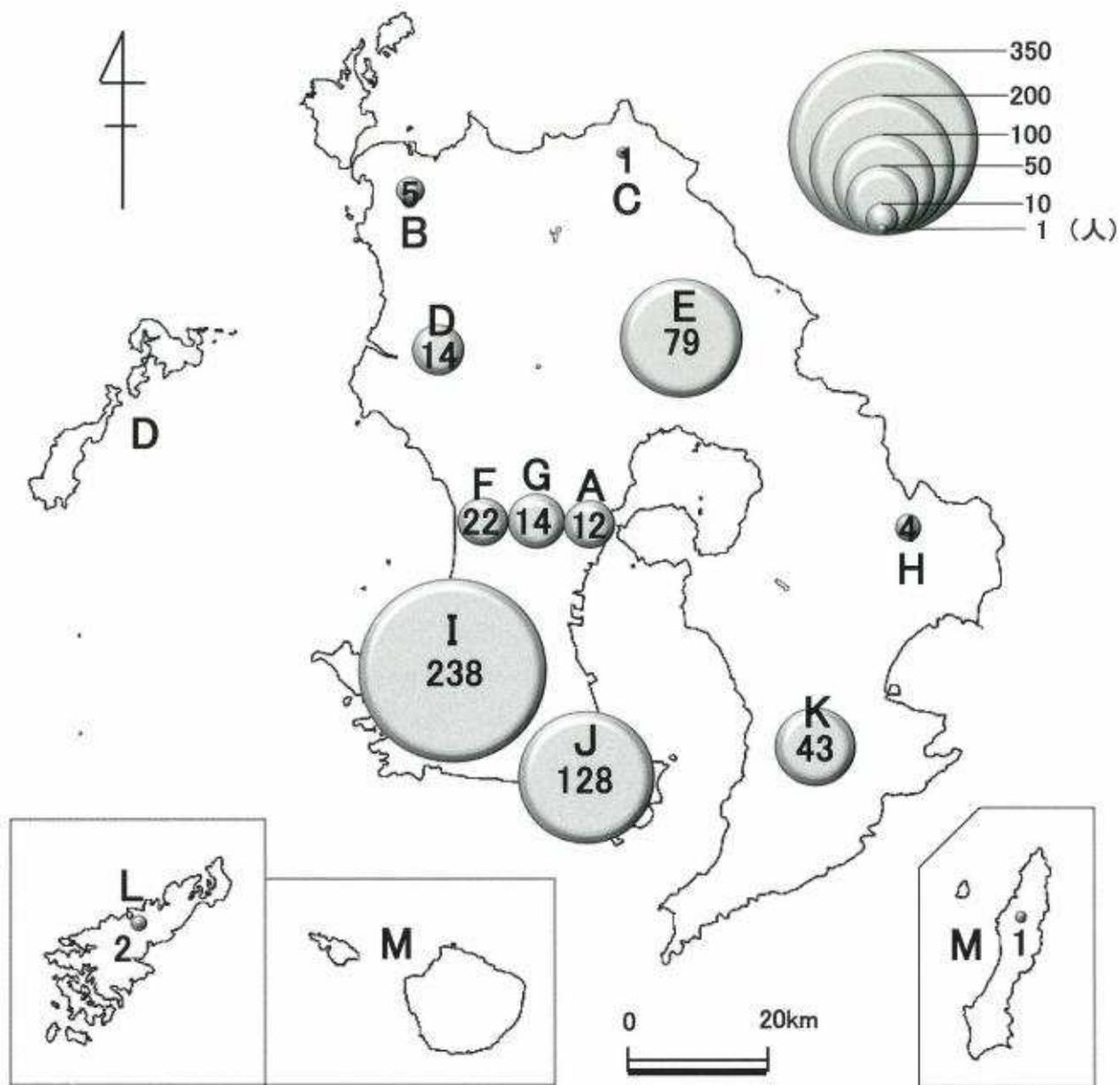
そのようななか、カナダへ渡った日本人も少なくない。太平洋戦争開戦直前の1941年に実施されたカナダ国勢調査によれば、当時のカナダには約21,000人の日本人（日系人）が居住し、そのほとんどは西岸のブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）で生活していた。そこではハワイのサトウキビ、アメリカの草花、野菜や果実、ブラジルの綿花やコーヒー豆栽培などの農業とは異なる生業に就く日本人の姿があった。例えば「江州ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなヘレン獲り」という俗言は、BC州での日本人の生業と彼らの出身地との関係をよく表している。これは、滋賀県出身者が製材業、熊本県出身者も山奥の伐木業や鉱業に従事して慣れない機械で命を落とすくらいなら、ヘレン（鯨）やサケを獲る漁業に就く和歌山県出身の方が恵まれているのか…という状況を表している。

それでは鹿児島県からは何人がカナダへ渡ったのか、そして現在の指宿市出身者はどのような生業に就いたのか。この小論で、簡単に述べてみよう。

2. 指宿出身者の諸相

1922（大正11）年、バンクーバーにあった日本語新聞社の大陸日報が編集・発行した『加奈陀同胞発展大鑑 附録』によれば、当時563家族・840人の鹿児島県出身者がカナダに在住していた。ただし、1889（明治22）年に市制が敷かれた鹿児島市からは、わずか12家族・24名しかカナダに渡っていない。旧市街地に居住していた人々は、海外に生活の糧を求めなくても、多種多様な生業が得られたのであろう。さらに、維新後には故郷を離れ、新しい国家に尽力する人々も少なくなかった。また、同市に隣接する鹿児島郡からも、14家族・30人しか渡加していない。鹿児島県のカナダ移民は郡部、とりわけ南西部に位置する薩摩半島から多く輩出されていた（図1）。最多は、238家族・341人がカナダに居住していた川辺郡出身者である。それに続くのが128家族・176人を示す揖宿郡出身者である。そのうち79家族・121人が、現在の指宿市出身者によって占められていたのである。

指宿市出身のカナダ移民は、次の表にまとめられる（表1）。『加奈陀同胞発展大鑑 附録』によれば、総数は79家族・121名を数え、そのうちかつての指宿村出身者は55家族・89名を占める。同資料には、1889（明治22）年の合併によって施行された、いわゆる明治行政村が出身地として記されている。ただし、一部では藩制村、のちの大字も併記されている。それも看取すると、指宿村で最多のカナダ移民を輩出しているのは24家族・38名を数える十二町である。大字が不明の指宿村出身者も24家族・42名に及ぶが、名字から推測すると十二町出身者はさらに増えるであろう。続いて今和泉村から11家族・14名、山川村から2家族・5名がカナダに渡っている。なお、額娃村については大字の併記が皆無であるため、2006（平成18）年に合併した



A：鹿兒島市 B：出水郡 C：伊佐郡 D：薩摩郡 E：姶良郡
 F：日置郡 G：鹿兒島郡 H：曾於郡 I：川辺郡 J：揖宿郡

注：円の大きさは人数、円内の数字は家族数を示す。

図1 鹿兒島県出身者の家族数と人数

中山訳四郎『加奈陀同胞発展大鑑 附録』1922, より作成

現在の指宿市域からの正確な渡加者は不明である。ただし、この史実を確認する重要性を鑑み、表1では全ての願娃村出身者を掲載した。

3. カナダで最初の日本人医師

指宿市出身者はカナダのどのような地域で、いかなる職業についていたのだろうか。『加奈陀同胞発展大鑑 附録』に収められた「在留同胞人物観」には、現地で成功した人々が紹介されている。それには誇張された美辞麗句も少なくないが、彼らの活躍を簡単に知ることができる。全国で約600名が紹介されるなか、34名が鹿児島県出身者である。そのうち、指宿市出身は3名しか紹介されていない。この比率は、先述した移住家族・人数からみるとやや少ない。すると、当市からのカナダ移民には、成功者は少なかったと解されるのだろうか。それは必ずしも事実ではなく、鹿児島県の冒頭に紹介されている指宿村十二町出身の下高原幸蔵（敬称略、以下同じ）については、以下のように記されている（原文ママ、下線は筆者、以下同じ）。

〔資料1〕

（前略）下高原幸蔵君は、学資あるに非ず、補助者あるに非ず、独り奮闘苦学して医科最高学府を卒業し、邦人の難関として未だに一人の通過せしことなき州医術開業試験に合格し、在加奈陀日本公認医の唯一人者たる栄冠を戴ける所以、吾人同胞の誇りとして之を世に紹介せんと欲する者なり。君は鹿児島県指宿郡指宿村十二町の出身にして、明治三十三年七月旅順丸に乗じ始めてヴィクトリヤに上陸す。当時君は年医甚だ若く未だ労働に絶え得ざる身を以て、或は漁業に従ひ、屋内労働に白人の酷使を受け、或はステブストン病院に看護夫たりし事あり、其間耐えず勉学を怠らず、而も僅々数弗の月給は君の最も苦痛感ぜし所にして、ときに養鶏場の廐屋に寝ね、牛馬に隣りてな眠りしが如きは君の懐旧として頗る価値あるものなり。而して当時の同胞中ハイスクールに在学せるもの殆んど稀にして、君は内田初音嬢、畠壽君等と共に其最初の学生たりし也。同四十二年業を卒へ、一時米国移民官通訳として勤務せしも、君の大志は斯る小成に甘んずべくもあらず、同四十三年より以後コロンビア大学に通学すること二年傍ら同胞青年の夜学教師となりて学資を得つ、日夜研学の結果、同四十五年卒業の栄冠を擔ふ。而も燃ゆるが如き先学の意気は、更に君を駆つてシカゴ医科大学に走らしめぬ。是れぞ君の最も記念すべき時にして、実に同四十五年九月なり、当時在学せる日本人中医学部に於ては唯君あるのみ、加之学費に乏しき君は支那料理店、白人家庭、洋食店等を以て学費習得の根源地とす米加在留同胞にして苦学する者は極めて稀なるに、爾来螢雪四箇年の苦を忍びて大正四年業成り、直ちに、シカゴに於て医術開業試験を受けたるが七十余の受験者中首位を以て合格したる如きは君が頭脳の明晰なるを証するに足る。次で同年六月晩市に來り、同五年五月ヴィクトリヤ市に於てビーシー州の医術開業試験に登第し、幾許もなくメイン並にパウエル両街角に醫院を開業せり。直に晩市における唯一の公認医として患者の蟻集しつゝある所以のものは畢竟君の卓越せる技量と豊富なる学識に由れり。最近に至り君を中心として、アレキサンダー街に於て日本人病院の設立を見、多数医師と協力して、専心仁術に励精し居れば、声価を挙ぐるもそれ近からんか。（後略）

つまり、1900（明治33）年7月にビクトリアに渡った下高原幸蔵は、カナダで最初に医師免許を取得し、開業した医者である。現在の指宿市十二町に生まれた彼は、さまざまな職業を経て現地の高等学校を卒業後、1910（明治43）年にバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学に進学した。さらに1912（明

表1 現・指宿市域出身者の一覧

出身地		世帯主	家族構成	出身地		世帯主	家族構成				
村	大字			村	大字						
指宿村	十二町	池永 周次郎		指宿村	不明	原口 栄吉					
		池永 仲次郎	養子 欽男			肥後 伊勢太郎	妻 クエ 長女 光子				
		岩松 庄太郎	妻 須美			吉永 藤助					
		小田口 興市郎	妻 フミ 長男 英一 (カ生)			肥後 佐一郎	妻 ユイ 長女 ヨシエ 二男 行夫				
		上川路 喜平次	妻 イセツル			肥後 鷺					
		上高原 美一郎	妻 ヤエ			肥後 静蔵					
		下高原 虎記				肥後 末吉	妻 代志 長男 豊吉 長女 シヅエ (カ生)				
		下高原 幸蔵	妻 信子 長男 信一 (カ生)			肥後 助四郎					
		下ノ関 熊太郎				肥後 清二郎					
		下ノ関 熊太郎				肥後 一					
		高崎 精次				肥後 萬吉					
		永田 三四郎				廣田 年夫					
		肥後 祐雄				(亡)比地 善四郎	妻 エイ 四女 スミ 五女 栄				
		肥後 弥平次				森 松治郎					
		肥後 平太郎				井上 栄二					
		肥後 幸平				井上 クイ					
		肥後 美之助				井上 貞助					
		指宿村	十二町			肥後 善太郎	妻 ユキ 長男 康行 長女 ヒデ 次女 サダ 六男 栄二	今和泉村	岩本	井上 周吉	
						廣田 八次郎				井上 丈助	
						廣田 仁次郎				井上 政吉	妻 エイ 長男 政一 (カ生) 二男 政彦
	満石 甚太郎			妻 由美	井上 精二						
	山下 實				井上 大吉						
	山下 與作				井上 友次郎						
	吉本 新次郎				丸岡 二之助						
	東方			福島 鉄太郎	二男 正二 三男 秀男	小牧 森田 治助					
	山ノ川 伊勢吉				不明 福島 次助						
	四方			濱崎 慶		福元 原口 次郎	妻 美弥 長男 勇 (カ生) 二男 勉 (カ生)				
	西方	山本 七助		不明 荒武 龍五郎							
		肥後 清蔵		上村 豊助							
	十町	廣田 喜一郎		大原 喜之助							
		櫻田 常吉		栗ヶ窪 澤右衛門							
	不明	不明	大村 助二		高田 喜助						
			迫 末吉		難波 経幸						
			高崎 喜太郎	長男 秀吉	西 小右衛門						
			高崎 幸助	妻 アイ 長男 幸男 (カ生)	西 三助						
			中俣 佐吉		濱崎 市太郎						
			永田 伊次郎	長男 伊助	濱崎 末吉						
			橋口 荘太郎	妻 トミ 長男 正治 (カ生) 橋口 正雄 (カ生)	濱崎 長五郎	弟 長市 養子 泰蔵					
			橋本 喜兵衛								
			濱崎 休吉								
			濱崎 源蔵								

中山訊四郎「加奈陀同胞発展大鑑 附録」1922、より作成

- 注1. 「十二字」という記載は、「字十二町」と判断した。
 注2. 家族構成の(カ生)は、カナダで生誕したことを示す。
 注3. 資料はアルファベット順に掲載されているが、表では50音順に並べかえた。
 注4. 額娃村については、現・南九州市域出身者が含まれる可能性がある。

治45・大正元)年からはアメリカのシカゴ医科大学で研鑽を重ねた下高原は、1915(大正3)年に同地で医師免許を取得した。やがて、彼はカナダに戻ってBC州の医師免許を取得し、リトル・トーキョーとも呼ばれた日本人集住区のパウエル街で病院を開業した。この史実は『鹿児島県史』や『指宿市誌』など、鹿児島県内の自治体史誌では管見の限り触れられていないのである。

4. 東京移民合資会社による契約移民

「在留同胞人物観」には、あと2人の指宿市出身者が掲載されている。やはり十二町出身の吉本新次郎に関する紹介文は、次のようである。

[資料2]

(前略)君は鹿児島県指宿郡指宿村十二町のひとり、カナダ渡航以来、各地に請負業をなし、後同郷の人と共にシー・ピー・アール工事に就働して、其ボースとなり能く監督の地位辱めざりき、君は不言実行忠実業務に服し、凡て事業をなすに当り極めて徹底的に遂行し、頗る気概を有する人なり。後メーン町に於て玉突湯を経営して、頗る利潤を得し事ありしが、尋て又一二の商店を開きて経営の任に当り郷里より婦人を迎へて、相俱に提携して活動せらる、目下洋服及びブレース業を営む。(後略)

渡加当初、吉本は各地でカナダ太平洋鉄道(Canada Pacific Railway 以下CPR)の鉄道工夫として従事した。1907(明治40)年、東京移民合資会社はおよそ1,500人の日本人を契約移民としてカナダへ送出した。そのなかで、最多の400名を輩出したのが鹿児島県なのである。その内訳をみると、鉄道工夫と炭坑夫がそれぞれ200人ずつであった。吉本もこのなかの1人であった可能性は高いが、現在のところは不明である。

ところで、冬季の除雪作業において、南国出身者の苦労は大変であったにちがいない(写真1)。1910年3月4日には、BC州東部のロジャーズ峠で発生した雪崩で日本人鉄道工夫が32名も亡くなっている。このうち3名は、鹿児島出身者であった。この史実もまた、鹿児島県移民史だけでなく、これまでのカナダ日本人移民史で看過されてきた。これに関する史料の一部については、筆者はすでに外務省外交資料館から入手している。その分析は、今後期待されたい。

最後に、今和泉村出身の井上政吉について紹介しよう。

[資料3]

(前略)君は鹿児島県指宿郡今泉村の人にして、明治四十一年十二月来晩、ブリタニヤ鉦山及スキナ河等に於て労働に従事する事前後六箇年、其期間幾多の辛酸重疊するも、奮闘屈せず、遂に独立するの貯剤を得て大正五年四月メーン街に於て旅館を開業し、只管前途の隆盛を企画しつゝあるを以て漸く前途に光明を認め得たるものといふべし。君は輓近果物販売店を買収し、大に手腕を揮いつゝあり。(後略)

井上の渡加の経過は不明であるが、その就業地は興味深い。つまり、当初にはバンクーバー北方のブリタニヤ鉦山で就業した彼は、やがてBC州最北端にあるスキナー川河口のサケ缶詰工場で働いたようである。

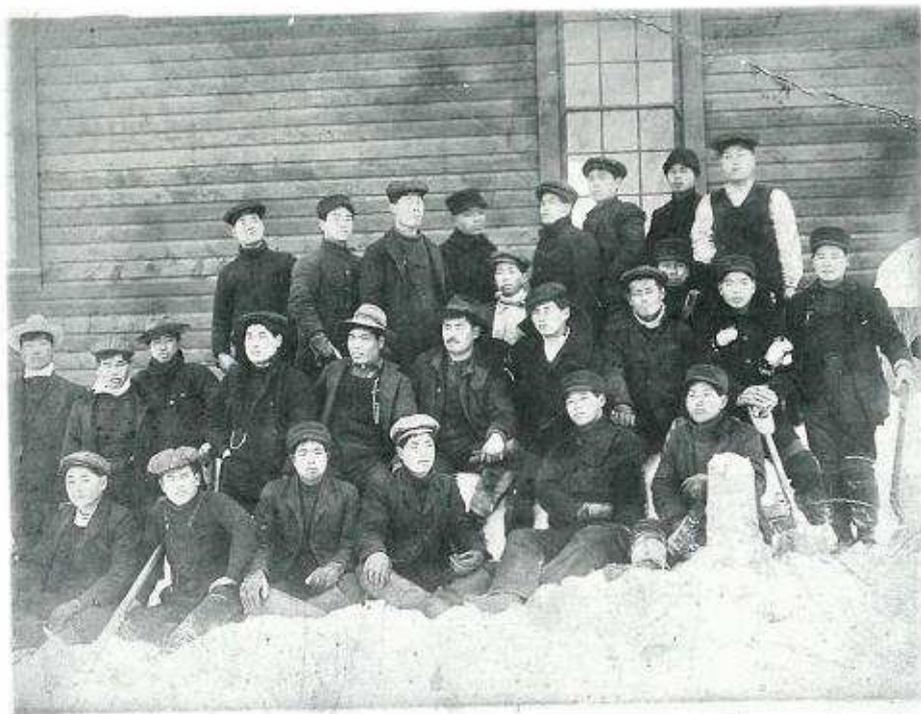


写真1 CPRの保線工として活躍した日本人（長野県・阿部文生氏所蔵）



写真2 バンクーバー・キャナリーに併設されたノース・アーム共立国民学校
（和歌山県・山口静代氏所蔵 「前川家コレクション」）

後者で井上は、サケ刺網漁業に携わったのであろう。当時のBC州では、いわば「サーモン・ラッシュ」というべきサケ缶詰産業が盛況であった。しかし、渡加するまでほとんど眼にしなかったであろうサケの漁獲において、井上はどのような気持ちを抱いていたのだろうか。彼の活動の精査によって、鹿児島県を越えた新たな移民史が解明される可能性がある。

5. 「泣こかい 飛ぼかい 泣こよか ひっ飛べ」－おわりにかえて－

これは、「思い悩むなら、まず実行せよ」と解せる格言である。このタイトルのように、いつでも鹿児島県の人々は夢を抱いて飛躍の場を求めている。それは、カナダへの出稼ぎや移住にもあてはまったのである。下高原ら以外にも、すでに活躍の場がわかる指宿市出身者もいる。拙稿で筆者は上高原美一郎、永田三四郎、肥後美之助と肥後善太郎の4名を紹介した。いずれも十二町出身の彼らは、バンクーバー南方のフレザー川河口に位置するキャナリー（サケ缶詰工場）の1つであるバンクーバー・キャナリー（サケ缶詰工場）に従事していた（写真2）。そこで彼らは、缶詰の材料となるサケを刺網漁業で獲っていたのである。

決して多くはないが、無視できない指宿市からのカナダ移民について、今後も検討したい。そのとき、十二町を中心とする出身地の様子を明らかにする必要がある。19世紀末、当地の人々が海外に眼を向けた理由として何があったのか。いわゆる輩出要因について、時代性と地域性から考えねばならない。そして何よりも、埋もれた歴史の発掘が望まれる。これまで注目されてこなかった当地の海外出稼ぎや移民について、広く一次資料の収集を呼びかける必要がある。それは、新しい地域史の構築へ昇華するにちがいない。

付記

本稿の執筆をお勧めいただいた、指宿市教育委員会に深謝申し上げます。調査において、ご高配いただいた指宿市立図書館をはじめ、当市の皆様に感謝いたします。また、古写真をご提供いただいた山口静代様（和歌山県在住）、ならびに阿部文生様（長野県）と山路和盛様（茨城県）にお礼申し上げます。

本文で紹介した1910（明治43）年に起ったロジャーズ峠での雪崩災害で、阿部様の大叔父・正虎氏、山路様の大叔父・満之助氏らが犠牲となりました。山路満之助氏とその従弟にあたる迫田彦八氏は、鹿児島県肝属郡垂水村出身でした。彼ら従兄弟の詳細は不明ですが、指宿市出身の契約移民とともに渡加したと思われます。このように本市、そして関連地域からカナダをはじめとする海外への出稼ぎ・移住に関する情報がございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

—おもな参考文献—

- 飯野正子 「日系カナダ人の歴史」, 東京大学出版会, 1997。
- 指宿市 「指宿市誌」, 1958。
- 鹿児島県 「鹿児島県史 第4巻」, 1943。
- 河原典史 「第2次世界大戦前のカナダにおける日本人の就業構造」, 地理月報501, 2007。
- 河原典史 「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみるサケ缶詰産業と日本人漁業者」, 立命館大学言語文化研究19-4, 2008。
- 河原典史 「カナダ日本人漁業移民の見た風景 前川家「古写真」コレクション」, 二人社, 2013。
- 河原典史・藤村知明 「カナダ太平洋鉄道への日本人契約移民—1910年3月のロジャーズ峠雪崩犠牲者からの考察—」, 日本地理学会発表要旨集70, 2011。
- 佐々木敏二 「日本人カナダ移民史」, 不二出版, 1999。
- 新保満 「カナダ日本人移民物語」, 築地書館, 1986。
- 新保満 「カナダ移民排斥史—日本の漁業移民—(新装版)」, 未来社, 1996。
- 中山訊四郎 「加奈陀同胞発展大鑑 附録」, 1922。(復刻版 佐々木敏二 「カナダ移民史資料 第2・3巻」, 不二出版, 1995。)
- 山田千香子 「日系カナダ社会の文化変容」, 御茶ノ水書房, 2000。

指宿市考古博物館
時遊館 **CoCCo** はしむれ
平成23・24年度
博物館年報・紀要

平成25年3月発行

発行：指宿市考古博物館
指宿市十二町2290
TEL 0993-23-5100 FAX 0993-23-5000

印刷：(有)指宿新生社印刷
指宿市東方8068-3
TEL 0993-24-2002 FAX 0993-23-3805

